

平成27年度グリーンワーカー事業

箱根地域外来生物植生調査駆除業務

# 報告書

一般財団法人自然公園財団箱根支部

はじめに

この報告書は「平成27年度グリーンワーカー事業箱根地域外来生物植生調査駆除業務」として受注し、神奈川県足柄下郡箱根町内、富士箱根伊豆国立公園箱根地域における特定外来生物オオハンゴンソウの生息状況の確認、駆除業務結果をまとめたものである。

## 1. オオハンゴンソウの駆除

### ① 作業期間

平成27年8月8日から10月13日まで延べ15日間行った。

### ② 作業実施場所

神奈川県足柄下郡箱根町内、富士箱根伊豆国立公園箱根地域

### ③ 作業方法

「箱根におけるオオハンゴンソウ確認地カルテ2014」（関東地方環境事務所発行）を基に、以下の8区域に分けて作業を行った。

区域1. 仙石原・明神林道周辺

区域2. 湖尻・温泉荘周辺

区域3. 宮城野・強羅周辺

区域4. 湯坂路・小涌谷周辺

区域5. 芦之湯・畑宿周辺

区域6. 駒ヶ岳周辺

区域7. 元箱根・精進池周辺

区域8. 箱根・畑引山周辺

作業は、スコップ、鎌、手鋏、素手で行い、除去したオオハンゴンソウは地点ごとに株数を数え現地の環境と共に撮影し、ビニール袋に入れ燃やすごみとして箱根町環境センターに搬送。なお、作業は土地所有者の了承を得て行った。

作業者は環境省が作成した周知文を携帯し、オオハンゴンソウ生息地の土地所有者が不在の場合ポスティングした。駆除作業中、通行人からの質問の際にも周知文を渡し、その旨を伝えた。

### ④ 作業体制と作業日数

作業人員は1日あたり2人（1人駆除作業、1人作業メモ作成）で15日間、延べ30日間作業を行った。

カルテ作成は1日1人で延べ10日間作業を行った。

## ⑤報告会の実施

本業務の結果について、以下の通り2回報告会を行った。

- ・1回目：箱根パークボランティア研修会（2015.12.5）
- ・2回目：箱根地区公園連絡会議（2016.1.22）

## 2. オオハンゴンソウ駆除結果

作業区域ごとの駆除株数は以下のとおりとなった。（単位：株）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	計	対前年増減
区域1	1,796	524	242	2,562	-282
区域2	3,876	796	93	4,765	-703
区域3	11	19	4	34	-15
区域4	78	30	89	197	59
区域5	19	29	0	48	-29
区域6	133	81	2	216	-79
区域7	145	51	1,006	1,202	955
区域8	352	720	39	1,111	-681
計	6,410	2,250	1,475	10,135	-775

表1 平成25年度～平成27年度箱根山全土におけるオオハンゴンソウ駆除株数（県町等のボランティア団体による駆除株数も含む。）

### 区域1.仙石原・明神林道周辺

ほとんどの地点において駆除株数が大幅に減少傾向にある。しかし、仙石原湿原内の地点に関しては、今年度は確認できなかったが、ススキやヨシの藪の中に位置するため人間の目を逃れ密かに群落を広げている可能性も十分にあり得るので引き続き調査が必要。また、私有地が多いため過去に植栽され繁殖しているケースも多い。かつての調査地点が駐車場等に舗装されている箇所が数点あったが、埋蔵種や飛散種の懸念もある為、引き続き周辺の調査を行う。

毎年の事であるが、一軒一軒を訪ね、許可を得てからの作業となるため土地所有者不在（不明）の場合、駆除作業にたどり着くまで時間がかかるケースもあった。

## 区域 2. 湖尻・温泉荘周辺

駆除株数は全体的に見て減少傾向にある。3年前発見した大群落については、着々と駆除の成果が表れている。大群落の箇所が平成24年度に発見されて、当初20,000株ほどあった株数が、今年度は90株ほどまで減少した。

## 区域 3. 宮城野・強羅周辺

新規箇所を発見はしたものの、全体的に見ていくと確実に減少傾向であるので、昨年までの駆除作業が顕著に表れている。完全駆除までもう少しである。

## 区域 4. 湯坂路・小涌谷周辺

昨年度に懸念した「人目につかずひっそりと株数を増やしている可能性」を念頭に入れ調査を行ったところ、藪の中の実生を数ヵ所発見するに至った。埋蔵種の可能性も大いにある為、次年度以降は人数を増員させ、細かく調査を行う必要性を感じた。

## 区域 5. 芦之湯・畑宿周辺

昨年まで順調に株数を減らしており、今年度の駆除株数は0となった。しかし、埋蔵種等を懸念し来年度以降も調査は継続していく。

## 区域 6. 駒ヶ岳周辺

草丈が高く、分け入ったの調査は困難であった。藪の中にある実生や種の飛散の可能性もある為、多人数・数日かけての調査の必要性を感じた。

## 区域 7. 元箱根・精進池周辺

国道沿いの1調査地点のフェンスが取り除かれ、前年度まで立ち入れなかった箇所を新たに調査した為、この区域については駆除本数が大きく増加している。その他駆除地点については減少傾向にある。

## 区域 8. 箱根・畑引山周辺

区域1と同じく私有地が多く、植栽されているものが多い。また、空き地や空き屋の敷地などの放棄された土地も多く、そこがオオハンゴンソウの繁殖地となっているのがこの区域の特徴である。

全体的に駆除株数は大きく減っており、あと数年程で完全駆除が可能である地域であると思う。植栽については土地管理者と折衝を行い、駆除を進めていく必要がある。

### 3. 確認地カルテの作成

箱根地域において、2006年より毎年確認地カルテが作成されている。これは駆除作業を行った箇所ごとに作成するもので、箱根地域のオオハンゴンソウの生息状況を広く把握し、将来的な駆除対策の順応的見直しなどに使用するための基礎資料となっている。当財団による駆除結果に加え他団体のボランティア活動による駆除情報の提供を受け、2015年のカルテを作成した。

#### ○作成方法

資料1（箱根におけるオオハンゴンソウ確認地カルテ,pp11～pp12,3.確認地カルテの記入方法）に従って作成。

- ・昨年度までの状況は黒字、今年状況は青字、来年以降の方針（案）は赤字で統一する。
- ・位置図について、地点ごとの位置関係がわかるように位置図内に入るすべての地点を表示し、カルテに該当する地点については赤く表示した。

#### おわりに

駆除株数は確実に減ってきており、全体的にオオハンゴンソウの減少が着々と進んでいる。しかし調査の中で新規箇所も発見されている。今まで入れなかった場所へ到達が出来るようになったり、目に届かなかった藪の奥の方にて植生を発見したりと、まだ調査が行き届いていない場所も少なからず存在しているはずなので、これまでの意識を緩めることなく引き続き密な調査や情報収集を行っていく必要がある。また、本年度は調査地点が舗装されている等の開発がされているところもあった。飛散した種が無いかの調査も注意深く行っていくべきである。

民有地での駆除については地権者との折衝を進めていき、オオハンゴンソウを駆除する意味について地権者の理解を得ていく事が必須。今後の駆除作業における重要課題とも思える。

昨年度からの課題でもあるが、駆除作業の更なる効率化を図る必要がある。カルテの内容をより現況に合うものにするよう項目の見直し、簡略化等をする必要がある。それにより「カルテを確認し駆除に取り組むことが可能」な将来へ長く繋げられる仕組み作りをしていく。

添付資料 状況対比写真

- ・ 最多株数の発見地点



これまで中に入れなかった場所が入れるようになったので調査。  
背丈の低い株が群生していた



作業後  
植生がなくなった。



駆除した株。

添付資料 報告会写真

○第1回 箱根パークボランティア研修会 (2015.12.5)



○第2回 箱根地区公園連絡会議 (2016.1.22)

